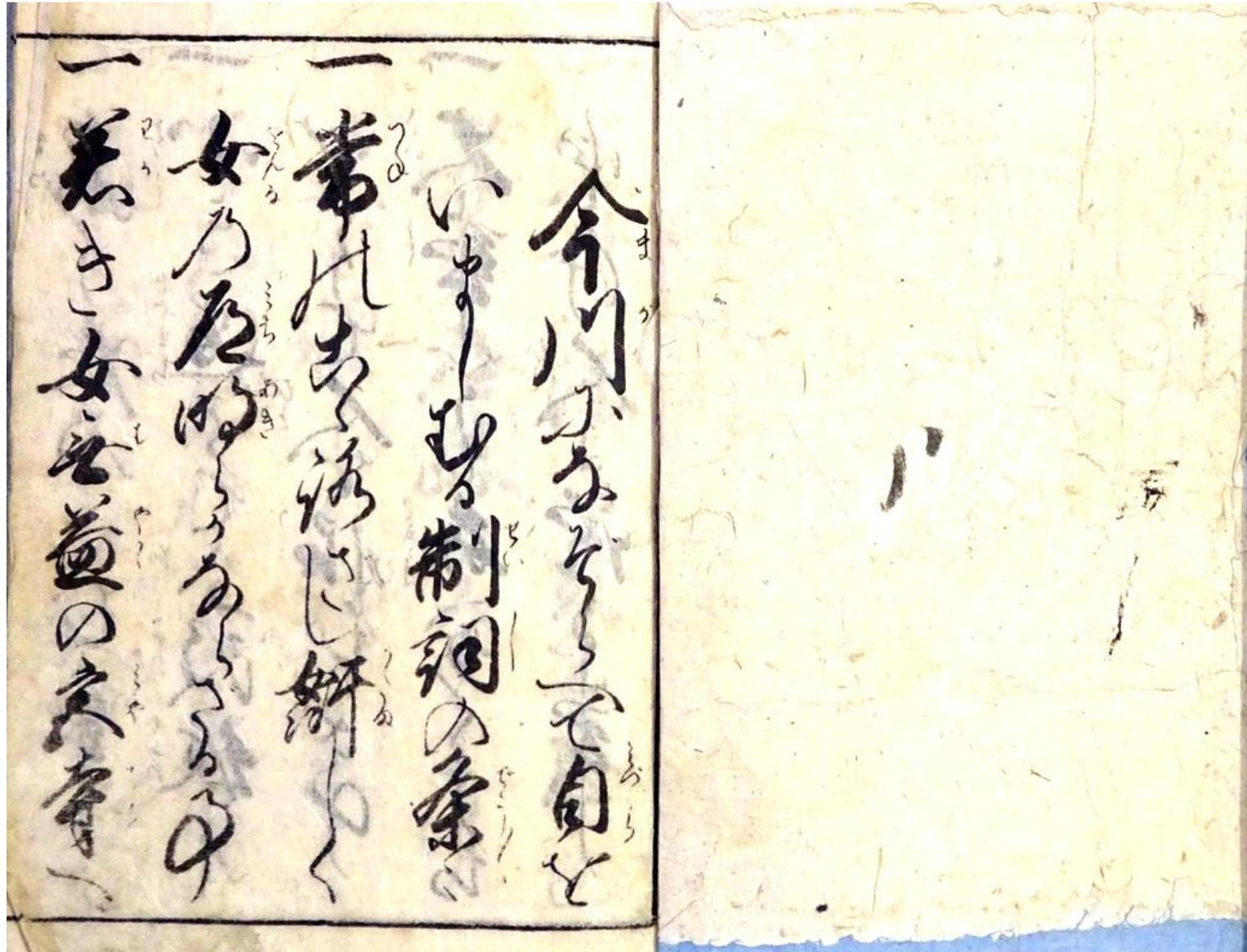


江戸時代の往来物を読む

史料 女今川状 (飯塚家No.5500)



一 美^みのた^たる^るじ^じ事^事
 一 小^こい^い道^{みち}く^くて^て不^ふ改^か故^こ
 一 人^{ひと}と^と指^さじ^じの^の事^事
 一 大^{だい}事^じも^も奇^きなる^る事^事
 一 事^{こと}付^{つけ}人^{ひと}の^の事^事
 一 父^{ちち}母^{はは}れ^れ流^{なが}る^る慈^{あはれ}と^と忘^{わす}れ^れて^て
 一 孝^こ宏^{こう}乃^の跡^{あと}も^も大^{だい}なる^る事^事
 一 支^しと^と將^{しょう}し^しめ^め我^{われ}と^と立^たて^て
 一 王^{おう}乃^のと^と公^{こう}れ^れなる^る事^事
 一 道^{みち}も^も省^{しょう}く^くも^も業^{ごう}の^の事^事

(中 略)

一 熱と冷く方と云む子
 一 衣敷乃包おのれ天舞
 一 貴そいや一死も法なる
 一 毎一と氣法を好む事
 一 人の非をわを我は智
 一 乃坐思ふ事
 一 出家沙門は對面とと
 一 不在例をく刻る事
 一 我方際と云くは或る事

あつらふ香いふ道の事
下人乃若悪を辨む石
仕やう三つは清く
一男姑小藤末にして人の
後とゆる事

一綾子小藤よりて他人
乃朝と死する事
一男老より小藤間を死親
一道とある人々嫌ひ我

福も友と電する子
一人来る時我も後娘
任も想と後娘の子
右の條へ帯に七よけ
らるる子母のついで

坐いとも程の横に入
る事へ先家とさるる
心志直ふ一人毎
子我も互に其の心
陰も毎へ丈夫を陽

しよく浪男は乃ち地
の陰よりて和ふ女の乃ち
陰の陽よきさうふり夫
地自然の道理なるゆゑ夫
婦乃ち乃ち地よきとて

た道は夫をもれ如く教ひ
きふは是れ天地の道之
され初より人法也さうく
妻成友小交り能初も根
のしよく穢し死友小を寄